

科目名	新興国経済と日本の中小企業 Emerging economies and Japanese SME		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・金・5 限		-	-
担当教員名	岸田 伸幸	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>日本と比較的近い東南・北東アジア地域の国際的な現場で存在感を増す「新興国」経済の現状、および、将来の展望を把握すること、そして、その地域に於ける地方中小企業の活動の現状についての理解を深める。そのために、新潟を中心としてグローバルなフィールドで活動している中小企業の経営者や企業家、或いは研究機関に所属する研究者など専門家を、オムニバス形式でゲストとして招き計5名に講演をいただく。ゲストごとに、担当となる本学教員のコーディネイトにより、その内容を踏まえ各国のビジネス現場で取り組まれている課題をケースとしてクラス討議し、中小企業の新興国事業での問題解決の方法論を創造的に習得することを目的とする。</p> <p><到達目標></p> <p>新興国での中小企業の事業活動について現場に近いゲストから学ぶ。講義からの学びを経営学的に整理する。また、現実の中小企業の国際経営の課題の企業家的な解決策の考究を経験する。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>下記講義計画にあるように、5名のゲストによる講演（各1週目）を踏まえたグループ討議を実施し（各2週目）、討議結果の発表とそれに対するクラス討議をおこなう（3週目）。</p> <p><ゲストスピーカー招聘></p> <p>5名を招聘する。詳細は下記「講義計画」を参照。</p> <p><講義計画> ※各テーマは暫定であり、変更の可能性あり。</p> <p>第1部（10/11） 宮崎富夫（㈱宮崎商店副社長） 「シンガポールへの寿司店進出」</p> <p>第2部（11/1） 平島健 尾畑酒造㈱社長 「日本酒の海外輸出」</p> <p>第3部（11/22） 関聡彦 hakkai㈱社長 「タイ、中国工場進出」</p> <p>第4部（12/13） 吉田至夫 新潟クボタ㈱社長 「モンゴル経済」</p> <p>第5部（1/17） 高橋克郎（㈱JSN） 「ロシアビジネスの現状」</p> <p>「講義計画」の第1部から第5部まで、各1週目はゲストスピーカーによる講演を、受講者各々の問題意識をもって聞き、必要に応じて質疑応答をおこなう。</p> <p>各2週目は担当教員（第1部：岸田教授、第2部：高中教授、第3部：岸田教授、第4部：唐木教授、第5部：富山教授、岸田教授）のコーディネイトにより、前週の講演内容を踏まえて各国のビジネス環境で取り組まれている課題をケースとして、受講者各々の問題意識に基づくグループ討議を実施する。</p> <p>各3週目は前週のグループ討議の結果の発表をおこない、さらに発表内容にかかるクラス討議を実施する。</p>				

<講義の進め方>

「講義計画」の第1部から第5部まで、各1週目はゲストスピーカーによる講演を、受講者各々の問題意識をもって聞き、必要に応じて質疑応答をおこなう。

各2週目は担当教員（第1部：岸田教授、第2部：高中教授、第3部：岸田教授、第4部：唐木教授、第5部：富山教授、岸田教授）のコーディネートにより、前週の講演内容を踏まえて各国のビジネス環境で取り組まれている課題をケースとして、受講者各々の問題意識に基づくグループ討議を実施する。

各3週目は前週のグループ討議の結果の発表をおこない、さらに発表内容にかかるクラス討議を実施する。

<事前事後学習内容>

詳細は講義回ごとに指示する。以下は想定される事前学習である。

各部第1週目：各ゲストスピーカーのテーマに関連し、各自の問題意識で可能な調査をしておくこと。

各部第2週目：ゲストスピーカー講演後に担当教員から出される課題を熟考し議論に備えること。

各部第3週目：第2週目のグループでの議論をまとめ、発表できるように準備をすること。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には概ね2時間相当かかると想定される。

<教科書及び教材>

必要に応じ、各回担当教員から指示/配布する。

<参考書>

必要に応じ、各回担当教員から指示する。

<成績評価方法>

各部のレポート15% × 5回、期末レポート10%、クラス貢献15%

欠席6回以上は成績評価しない。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

授業の学内SNSなどを通じて行う。

<履修条件>

無し

<DVDによる視聴> 可

<オフィスアワー>

必要に応じ、総括担当教員か各部の担当教員にメールで連絡をとること

<その他>